

議長(山口 一成君) 引き続き6番、近藤義憲君。

6番(近藤 義憲君) 本日最後の質問になりました。もうしばらく議論したいと思いません。

先の選挙で自民党より民主党へ政権交代になり、与野党が逆転いたしました。地方自治は二元制度であり、議会は絶えず行政をチェックするという役割を担っております。野党的な立場であるべきだと私は考えております。

また、住民代表の一議員として要望、意見、提案として、その辺ご承知のうえ、一般質問を大きく2題、第5次総合計画について、条例に基づく庁内の審議会役員委員の選任方法について、庁内というのは庁舎内という役所の庁でございますので、町ではございませんので、よろしくお願いします。

それでは第5次総合計画について。

アンケート調査を踏まえて、今後、東員町のまちづくりをどのように進められるかを、大きく伺いいたします。

2つ目、第4次総合計画で未完、達成できなかった策の中で特に重要な課題は何か。また、その理由がありましたら伺いいたします。

3つ目に、基本構想案を拝見し、議員として再度以下の提案いたしますので、いかにお考えかをお願いいたします。

3番の1なんですけど、農、商工、各種団体を連携させて、町を挙げての特産品の開発と地産地消の販売所を設けることを提案します。

2つ目に、陸上競技場に、同僚議員も質問がありましたが、宿泊施設と健康増進、高齢者医療対策としての、くどいようなんですけどもう一度、温泉開発を要望し、提案しますので、その辺のこともお答え願いたいと思います。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) 近藤議員ご質問の第5次総合計画について、お答えいたします。

総合計画につきましては、昨年度から3年間かけて策定作業を進め、今年度は「とういん未来会議」や「総合計画策定審議会」でご議論いただき、基本構想案を作成いたしました。現在、パブリックコメントを実施しており、皆様にも今議会でご説明させていただくことといたしております。

それではご質問の第1点目、アンケート調査を踏まえた今後のまちづくりについてでございますが、アンケート調査では、町民のニーズは、健康や福祉の充実をはじめ快適な住環境の充実、そして子育てや教育の充実を求める要望が高くなっております。

将来的に人口の減少が予想され、少子高齢化がますます進む中、町の持続的な発展を目指すためには、若い世代の増加を図り、人口の世代バランスを維持するため、うまく世代交代させる必要があります。

そのためには子育てや福祉の充実、住環境の整備を図り、特色あるまちづくりを展開して、若者の定住化を図っていく必要があると考えております。

このことにつきましては、今議会におきましても施策の一つとして、若者定住促進のための条例制定を上程させていただいたところでございます。

そのような中で第5次総合計画のまちづくり方針につきましては、「安全・安心なまち」、「人にやさしいまち」、「心豊かなまち」、「快適なまち」、「にぎわうまち」、「語らいのあるまち」を6つの基本施策として、暮らしに喜びがあり、一人一人が生涯を通して輝いていられ、本町で住む喜びが実感できるまちづくりを目指してまいりたいと考えております。

2点目の、第4次総合計画で達成できなかった施策の課題についてでございますが、昨年度実施した達成度調査の中で評価の低かった主な分野を3つ挙げますと、1つは、多様で活発な交流活動・多様な主体による協働のまちづくりが課題となっております。

地域交流団体の発掘による地域活動の活性化やNPO・ボランティアの活動支援など、町民の町政への参画・協働による地域づくりにつきましては、第5次総合計画の中でも最も重要な指針として位置づけ、取り組んでまいります。

2つ目は、魅力ある商業の振興の中の流通施策の立地支援でございます。

東海環状自動車道の整備計画が当初よりおくれたため、物流企業の誘致が進みませんでした。今後関係機関に早期整備を働きかけ、東員町の交通利便性を一層PRしていきたいと考えております。

3つ目は、効率的な行財政運営の中の自主財源の確保でございます。

町税の適正な課税や滞納処分を行い、有料広告などによる収入確保に努めてきましたが、未利用財産処分等の課題も残りました。今後企業立地や人口増加施策など、引き続き自主財源の確保に努めてまいりたいと考えております。

3点目は、特産品開発・地産地消と販売所の設置について、ご提案をいただきました。

第5次総合計画の策定に当たり、「とういん未来会議」の中でも、特産品の開発や農産物などの販売所の設置について、多数ご意見をいただいたところでございます。消費者の方が安心して農産物などを購入できることが、さらに農業、商業の発展にもつながるものと思われ、第5次総合計画におきましても重要な施策と考えております。

また、陸上競技場付近への宿泊施設の建設と温泉開発は、町民の健康増進・医療対策や、陸上競技場・中部公園を中心とした観光開発のためには、一つの有効な手段とは考えられますが、今後は専門家による市場調査を行い、宿泊施設や温泉開発に対する需

要等を研究することにより、費用対効果をしっかり見きわめ、方向性を決定したいと考えております。

よろしくご理解賜りますよう、お願いを申し上げます。

以上です。

議長(山口 一成君) 近藤義憲君。

6番(近藤 義憲君) いろいろ感ずるところがあったところを詳しく答弁していただきましたけど、第5次総合計画の中で、これからですけど子育て、高齢者福祉、いいんですけど、その前にここにも書いてありましたんですけど、若者交流ですね、人口をふやす前に婚活というような問題もありますので、その辺も重点政策に入れていただきたいと思います。

そして、私は今お聞きした点でお願いしたいことは、農商に関して特におくれていたと思います。

第4次総合計画の116ページに農業振興、それから新たな販路開拓というところで、目標が書いてあるのですが、9年前なんですけど、このところで消費者ニーズに合った野菜、園芸作物などの生産の支援に努めます。産地間競争に農家に対応できるように、行政として積極的に先進技術の導入を促進します。また、農協を通じた1.5次産業の流通の充実を図りますと。

その次ですね、なぜこれを言うかという、地産地消を推進するため、農産物直売所の整備を行いますと断言してあります。販売所の設置に関しましてですね。

いろいろあって、今なお販売所はできてない。農業商工祭をやった時に、野菜、その他、たくさんその日に売れてます。コスモス祭り、その他、先ほど三宅議員が言いましたように、観光協会のポニー広場の横に商工会がテントを立てて、野菜やもち、炊き込みご飯が結構売れて、その中にバナナ、にんじん、りんごなんて、よその物でも結構売れているんですね。一つのアンテナショップとしますので、先ほどの答弁も聞いておりましたけど、同僚議員の質問で、あそこへつるとか、ここへつるとか、そういうことよりもまず一つやってみて初めて、これは町だけやなしに、みんなで一つ考えてやらないといかんと。

それと地産地消について、アンケート調査でも34.6%、一番になっております。これ東員町、いいんです。団地と在来地区、消費者と生産者という住居構成になっておりますので、産業課がリーダーシップを取ってやっていただくんですけど、まちづくり課という課もありますので、ネーミングはまちづくり課がやるのかな、私は産業課だと思っておりますけど、何かその辺ひとつ真剣に、9年前の第4次でできなかったことだもので、早急に取り組んでほしいと思うんです。

その辺のこと、町長、一番初めに取り組むとか、まだあと1年ありますわね、平成23年からですので、1年以内に、先ほど公園の中に休憩所か事務所か何かありましたけど、そちらへ事務所を持って行って、今の場所を販売所にするとかありましたけど、早急にやってほしいんですけど、その辺どういうお考えでしょうか、お答え願います。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

東員町の現状というのは、至るところで議論をされております。特に少子化というんですか、高齢化は、当然近い将来は大変な状態になると言われておりますけども、少子化もよそと比べて非常に厳しい。特殊合計出生率が、東員町は東京都より低くなりました。現在、平成19年度で1.03です。2人のご夫婦で1人の子どもでございます。

この原因を、やはり突きとめるというんですか。私は、ご夫婦が1人の子どもではないと思います。というのは、なぜ出生率が低いかというのを、これこそ研究機関に一度お願いをしたいと思っております。先ほど近藤議員が言われたように、婚活をやらないといかんのかなと。結婚をしない男性、女性が東員町では多いのではないかなと思っております。その実態をきちとつかまないと、いろいろ少子化の政策を打っても、余り合計特殊出生率が伸びないのかなと思っております。

今、1.03と言いましたけど、三重県とか全国とかの平均は1.4人ぐらいです。特に東員町が低いということで、まだ下がり続けております。このままいきますと、1を割る状態になってくよいかと思っておりますので、なぜそんな状態になっておるのか。やはり高学齢化、それからいろいろの職場等もあって、結婚をしない方が非常に東員町は多いのかなと、今は思っております。

その実態を、今後一度追求をしていきたいと思っております。プライバシーがありますので、なかなか行政では調査できませんので、どこかの大学に依頼でもして、調査を一度していただきたい、そんな思いでおります。

それから農業の関係でございます。第4次の総合計画の中でも、多分、農業というものが一番最重要視されておると思っております。

そんな中で、当然地産地消の関係で直売所をつくるという方向で計画を立てたと思っております。しかしながら残念なことに、なかなか東員町の社会情勢というんですか、地理的条件というんですか、そんな中で思うように進まない。

消費者も団地を控えてみえるということで、もっともっとできると言われるんですけど、東員町の場合は恵まれ過ぎて、お弁当を持って1日出ていけば日当がもらえます。月給がもらえます。そんな中で、やはり農業というのは非常に厳しい。皆さん、農業に携わってみ

える方もみえますので、農業の実態はわかってみえると思うんですけど、やはり仕事がつらい。厳しい。そして言葉は悪いんですけど、余りきれいではない。そんな中で、やはり若者が農業につかないのです。若い後継者が育たないというのは、そこにあると思います。

基本的に直売所をつくれということを言われるんですけど、年中、野菜が果たして出てるか。そら長野とか、そういうところの高冷野菜をどんどん入れれば別ですよ。東員町で施設園芸というのはありませんやんか。ビニールハウスって、どれだけありますか。年中、絶対出ませんよ。出るときには、それこそ一遍に出てくると思います。ただみたいなものが出てくると思います。そんなところでやれやれと言われても、まずつくっていただくところから改革しないとできないのですわ。それと農協が入ってもらわないと、行政だけではできないのですわ。

だからその辺はどうしていくか。やはり農家の皆さんに、きちっと支援をしてつくってもらう。それにはお金がかかります。そんなに簡単に農業というのは、特に野菜は難しいです。だから米と麦へいってしまっているのです。その辺は、これからも一生懸命させてもらいます。知恵もかしてもらいたいし、お金も要ると思いますので、どうぞご理解をいただきたいと思います。

議長(山口 一成君) 近藤義憲君。

6番(近藤 義憲君) 今の町長のお答え、よくわかっております。私も百姓の息子で、百姓が嫌で出て帰ってきたのでわかりますけど、再質問の中で、今、急に町長にできやんと言われたんですけど、先の55周年の時の農業委員の女性の方が販売所を設けてくれと。

それと「うりぼう」、小さい売り場ですけど、あそこへ行っていただきますと、花もあるし、小さい野菜もある。東員町でもここで町があっせんしている。あそこで採れた物だけでもよろしいと思うんですよ。米とあれですけど。

その基本で私、4次と5次とずっと調べたら、産業課に関しましてと言うとおかしいけど、農商の取り組み、ローリング方式で、今後も10年計画が一緒のことを書いてます。9年前に例えば農業支援のことを書いてあります。9年前にやり始めておったら今どういう状態になっておったか。農産物直売所の整備を行いますというけど、その前のことがやってないのでできない。

この9年間、私、議員になって6年目ですわ。産業課の課長の組織と人事、何人かわられたか。町長、今あれでしたら副町長の方から、産業課の課長、9年間でどのぐらいかわられましたか。私、議員になって6年です。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えさせていただきます。

けさからいろいろご質問をいただきました。三宅議員でしたか、ばか者がいないからということで、現実に私どもの職員の中から、一生懸命、それこそ俗に言うばかになって一つに仕事に打ち込んでやるという、それだけの覇気のある職員が過去にはなかったと思います。だからできないと思う。だから、絶対にできないことではないと思います。しかし、東員町の場合は非常に難しい。働くところが、どれだけでもありますもん、お隣に。そこへ弁当を持っていった方が所得が多いんです。その中で農業をやれと言え、どんな方法があるんでしょうか。教えていただきたいと思います。

議長(山口 一成君) 近藤義憲君。

6番(近藤 義憲君) 町長に反問されて、私、権利はありませんけど、私の言った歴代の産業課長、何人かわったか、それをまず教えてください。

議長(山口 一成君) 安藤修平副町長。

副町長(安藤 修平君) お答えをさせていただきます。

平成10年4月1日から現在まででございますけども、延べ8名になります。

議長(山口 一成君) 近藤義憲君。

6番(近藤 義憲君) 小学生でも割れる計算でしょう。9年で8名かわっているんですよ。腰据えてやったかと。

私は大きいことを言ってないです。農業商工祭にキャベツとか野菜とか、いろんな物が出ますやん。その時期だけでも、それからそこで一坪農園でもいいし、いつも一生懸命取り組んで一生懸命売るけど、東員町で売るところがないので、員弁、それから立田まで持って行ってみえる方もあります。そういう方がもうかれれば、担い手の方、3~4名は東員町で一生懸命やってみえる方、米、ほかにもありますけど、やはりそういう方をして、働く人は働くけど、農業の担い手を守って、今後例えば役場をやめて60歳から取り組もうかと、それでもよろしいやんか。一畝つくって、キャベツをようけつくったって売るところがないけど、そういうところをやっていけば、そしたら今度は豆をつくろうかと、そういう若者が商売としてやるんやなしに、連綿として日本人の百姓、百姓のいいところは、東員町と一緒にすわ。百姓というのは失礼です。ごめんなさい。

農耕民族は近隣市町のまねをしたら、一番トップのところの2番手におれば絶対生きていけます。隣が種をまいた。うちも種をまこう。隣が田を植えた。隣が刈る。隣がじゃがい

もつくった。うちもつくろう。一番手はしっかりえらいです。2番手にやれば、東員町の行政はそういうことなんです。オンリーワンではない。近隣市町がやったのでそうする。

その中で東員町の定住者とか、そういう新しいものもありますけど、一番無難なことではないんですけど、その辺、町長にお願いしたいのは、一回やってみてくださいよ。みんなの希望ですから。あかなんでもよろしいやんか。皆さん、農地の担い手の人もつくってほしいとか、商売人も売るところがないと言っているのです。今、商工会の中でも、つくらん会というのをつくって、その中で商工連携という組織の東海農政局国の中小企業庁で木曾岬町みたいにやっていますけど、町を残そうと思ったら、東員町は農民の町ですから緑を残さんならんから、せんでもいいやなしに、いい方法を教えてください。

公園の中の売店、一角でもよろしいやん。採れた時だけで。品評会の時に集まるんですから。花卉でも何でも、一応あるものがあれば、よそからとってまでやる必要もないと思いますけど。全国回っておっても、高地のピーマンやろうが、日本中大体どこへ行っても一緒の物がありますけど、どこの土産物でもそうです。どこかで土産をつくって、自分ところのラベルを貼って店に出てるわけですけど、その辺のこと、一回取り組んでほしいということ要望しておきます。

それと先ほど、これから研究すると言われましたことでも、温泉のことでも、ここに東員未来塾のことで、やるべきことと書いてあります。公営福祉施設、宿泊のできる施設、地産地消の推進、公園のさらなる充実とか温水プール、総合的に今まで町長は箱ものは建てない、財源に余裕がない、民間にあるからなど、研究しますと言って。温泉がいいとは言いませんけど、私は60歳で定年退職して75歳、平均年齢ぐらいまでは、皆さん、それなりに元気におると思うんです。その間の今まで働いてきた人の老人の家の施設ですか、それをやってほしい。

そして教育施設も、これはオンリーワンでほめてもらって結構だし、上下水道もオンリーワンです。財政力もよしで、財源がないと言われれば、遊休地がたくさんあるはずですから、早いこと処分して、温泉を掘るのがいいか悪いか、方法論は町と町民が株主になって、雇用のまち、雇用をして、指定管理者制度を導入して、道州制が敷かれる前に、ひとつそういう施設をつくってほしいと私は希望します。

先ほど、研究します、調査しますと言われたもの、今までやったら検討しますで終わったんですけど、先ほどの答弁で調査しますということをお聞きしましたので、それ以上言いませんけど、例えば町長の公約の安心・安全の中で、健康保持・増進を目的とした温泉施設の活用は、厚生労働省による温泉療養型健康増進施設の認定制度があり、年間医療費10万円を超えた場合には、これらの施設の利用料金、施設までの往復交通費についても医療費候補になりますという、そういう制度もありますね。

今、頓挫しているのですが、とにかくストレスを解消するように、日本人の温泉熱、裸のつき合い、前も言ったように宇宙へ行った方でも温泉に入りたい。日本人のふるさというところがありますので、温泉、温泉と言うとばかみたいですが、ばか者が1人ぐらいおらなあかんで、先ほどの質問ではないですけど、明日とは言わんけど、財源もありますけど、ひとつその辺のこと、町長、もう一度調査するか検討して、この結果を発表するというようなことだけ答弁いただきたいと思うんですけど、どうでしょう。

議長(山口 一成君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

地産地消の関係で、直売所というのは、団地の方に今でもずっとあったわけですね。だからそこへ、東員町で直接自分のつくったものを農家の方が行ってもらっているのですね。何人ぐらいみえるかわかりませんが、本来であれば、あれがもっと盛況になってきて、もう一つ大きなものというのが普通だと思うんですね。

あその場所で、団地の方でされてみえる今の直売所が、2時間かそこらで終わってしまう。毎日ではございませんね。毎日開いて、ある程度の時間、農産物が出てくる。あれでは小さいから次へと言うのならわかるんですわ。それならもう一つ大きなものをというんですけども、そこは中上の方からとか、町内の本当の篤農家の皆さんが野菜をつくられて出しているというんですわね。そこが対応できないということであれば次ということ。

それから、やはり私は先ほどから言ってますように、JAが何らかの形でかんでもらわないと農産物の直売というのは非常に難しいと。いなべ農協は、北勢町に自分ところにつくった販売所があるわけですね。うりぼうとは別に。だからその支店みたいな格好で支援をしてもらえんかと。余り物でもいいからということで、東員町とほかの藤原、北勢、大安ぐらいの農家の方とは、そこがちょっと違いますよということを言いたいのです。やはり野菜をつくる方が非常にたくさんみえるということなんです。その状況も、東員町からどれだけ会員になって農産物を出されておるかということも、私は承知をしております。その方たちにもお願いをしました。東員町の方で何とかしたいので野菜をつくっていただきたいのだということも、お話もさせてもらいました。しかしながら、なかなかきょう言っただけではいけませんので、第5次総合計画の中では、きちっとそのようなこともPRもさせてもらい、お願いもしていきますので、どうぞご理解をいただきたいと思います。

温泉の関係は、先ほど、市場調査というんですか、ある程度、専門家に東員町としてやっていけるのかどうかということ調査させてもらいたいということをお願いを申し上げました。

もう1つの方法は、実は皆さんご承知のように、パークレジデンスというんですか、長深



の特養の関係で、実は温泉が余っておるということで、何とか町とタイアップしながら、これをもう少し拡大できないのかというお願いをいただいております。これはもう以前からいただいております。

あそこでは、やってみえる方が自分ではできないと。あそこは調整区域でございますので、行政はできますけど、個人の方はできませんので、何とか町に支援をしてもらえないかという申し込みもいただいております。近々また文書でいただきましたので、それとも絡めて健康増進とか医療対策、町がそこへ出資をして、町民の皆さんが安くで本当の温泉に入れる、そんなことができないのかどうかを、法的に今、研究をせよということで指示をさせていただきましたので、その辺もあわせて、いろいろ検討させていただきますので、どうぞよろしくお願いをしたいと思います。

以上でございます。

議長(山口 一成君) 近藤義憲君。

6番(近藤 義憲君) とにかく健康増進を兼ねた施設を、どのような方法でもいいですから、ひとつお願いしたいと思っております。

それでは、2問目に移りたいと思います。

2問目は、条例に基づく町内の審議会及び役員の選任方法について伺います。

そして、先ほどもありましたようにバスの交通審議会とか、いろいろありますが、各部局に審議会がどのくらいあるか、そして審議会にいつも名を連ねている自治会長あたりの役がどのくらいあるのか、その辺のお答えをお願いいたします。

議長(山口 一成君) 安藤修平副町長。

副町長(安藤 修平君) 近藤議員の、条例に基づく審議会委員・役員の選任についてのご質問に、お答えをさせていただきます。

本町では法律や条例の規定に基づきまして、環境審議会、あるいは都市計画審議会、学校給食審議会等々を設け、さまざまな事項について、ご意見、答申をいただいているところでございます。

その委員の委嘱につきましては、審議事項に応じた方々に、例えば環境審議会の場合ですと議会議員の代表、町民皆さんの代表、町内事業者の代表、大学教授、あるいは弁護士等の学識経験者、これを条例の規定に基づきまして、町長が任命をいたしております。

また、法律や条例によって設置される審議会のほかに総合計画策定審議会、あるいはその実働部隊といいますが、こういう言い方をすると語弊があるかもわかりませんが、とういん未来会議、こういったもののほかにクリーン作戦委員会とか行財政検討委員会、あるいは敬老会実行委員会、男女協働参画まちづくり推進の会などの私的な機関もございます。中でも、とういん未来会議、あるいは男女協働参画まちづくり推進の会におきましては、公募によるご参加というのもいただいております。また、各種審議会、委員会におきましては、女性の登用ということにも心がけているところでございます。

審議会の数がどれくらいあるかというご質問でございましたけども、条例に基づいて設置されております審議会というのが7つ、同じく条例に基づいて設置されております委員会が15ございます。いろいろと重なる委員といいますが、選出に際して重なる場合もございます。どうしても地域の実情をよくご存じということで、自治会長会の会長とか、当て職みたいな部分もございますけど、自治会長会の自治会長とかいうことにもお願いをいたしております。先ほど言いましたように、当て職でいきますと、それも含めてでございますけども、当て職ばかりではございませんが、自治会長会の会長になりますと、今現在で13ぐらいの審議会・委員会にお世話いただいておりますし、副会長になりますと、4つから7つというところでお世話になっております。ほかにも自治会長が、2つから3つの委員会等にいろいろとお世話をいただいております。先ほど申し上げましたように、地域の実情というのも一番よくご存じという思いから、いろんな事項に適切なご意見を賜っておるのが現状でございます。

いろいろとご無理を申し上げているという思いは大変強うございますけども、実情ご理解いただきまして、よろしくお願いを申し上げます。

議長(山口 一成君) 近藤義憲君。

6番(近藤 義憲君) たくさんの審議会があって、特に自治会長に日ごろのご苦労を言いたいんですけど、15ですか、連合会長をはじめ、副会長もあるということで、もちろん、本人が納得して引き受けてみえるんですけど、自治会長も3年で交代したり、ときには連合会の会長ぐらいたと1年でかわられると。町もこころ人がかわられると、先ほどの産業課やないけど、9人もかわっていると、じっくり町とタイアップできないやないかというようなことも起きてきますので、役を剥奪するという意味ではなしに、副会長、また自治会長の名前で委嘱されるというか、我々でもそうですけど、団体の会長命令は来ますけど、委嘱されると、本人個人のことですので、私はその会に入ったことはないんですけど、いつも同じメンバーで、担当の課は違うけど、役員のメンバーは一緒やないかなと、そんなことも思っております。

それと、ちょっと気がついたことなんですけど、今度の第5次の委員選びですね、もちろん公募もありましたけど、我々の姉妹都市であります大台町ですね、あそこは13人の審議委員です。それで地区代表とか、いろんなことがありまして、113名で5つの分科会に分かれております。東員町はあその人口の倍あるはずなんですけど、37名というんですけど、大台町は町やなしに、一般の人という失礼なんですけど、そういう方の意見を細かく取り入れて、大台町の第1次総合計画を作成されております。私は東員町の第5次が悪い、いいというよりも、もう少し細かい点まで意見がすくえたらなと思っておるんですけど、その辺、副町長どうでしょうかね。人口が半分のところは3倍の委員がいるということで、どう感じられますか、ちょっとお答え願いたいと思います。

議長(山口 一成君) 安藤修平副町長。

副町長(安藤 修平君) お答えをさせていただきます。

大台町は大台町のお考えで、人口だけを見ますと、確かに私どもの方が多いわけですけども、地形的なものといえますか、そういう部分も考えての選択といえますか、いろんな事情があるかと思えますけども、私どもの方は、審議会の委員は20名でお世話になっております。ワークショップは35名の方でございます。これで少ないからということも思っておりませんし、それぞれの分野から、審議会にしてもワークショップにしても、出ていただいておりますので、これでやらせていただきたい、進めさせていただきたいと考えております。

議長(山口 一成君) 近藤義憲君。

6番(近藤 義憲君) 選ぶ権利は町長にあるのですので、そのことについてとやかく言うことはないんですけど、それだけ幅広く選んでいると。ほかの審議会、いろんな委員においても、これからも団塊の世代がたくさんやめられて、企業出身のベテランの方がたくさんみえますので、職員、東員町、我々を含めて、推薦する人があったらひとつ声をかけていただいて、幅広く選任していただきたいことを願っておきます。

以上をもって、いろいろ難しいことを言いましたけど、特に農業、商業について、第4次まで9年間に8人の課長がかわられました。ひとつどんと腰を据えて、せめて2～3年はどんと腰を据えて農業商業振興に取り組んでいただくことをお願いしまして、質問を終わりたいと思います。